

新・国際芸術祭（仮称）組織委員会 第3回アドバイザー会議

次 第

日時：2020年11月4日（水）

14時から

場所：都道府県会館 409 会議室

1 芸術監督の選考について

2 その他

芸術監督の選考プロセスについて

アドバイザー会議では、別紙の選考基準を基に、下記のプロセスを経て芸術監督候補者のリストを作成し、組織委員会会長に提示する。

組織委員会会長は、当該候補者リストを参考にして芸術監督を決定する。

○選考プロセス

- 1 アドバイザー会議において、新国際芸術祭（仮称）の芸術監督としてふさわしい者を選ぶための選考基準を検討し、決定する。
- 2 決定した選考基準を基に、適任者を事務局がリサーチして候補者リストのたたき台を作成する。
- 3 アドバイザー会議は、候補者リストのたたき台を検討し、候補者の追加、削除等必要な修正を行う。
- 4 アドバイザー会議は、候補者リストのたたき台に搭載された者を選考基準の各項目に照らして評価し、上位数名に絞り込んで順位付けしたものを候補者リストとする。

芸術監督の選考基準

アドバイザー会議は、芸術監督の選考にあたり、次の条件に基づき候補者リストを作成する。

1 基本的な条件

「新・国際芸術祭（仮称）」の開催目的を踏まえ、以下は基本的な条件ととらえる。

① 先端性

美術を中心とした現代芸術の先端的な動向を、国際的な視野によって紹介すること。

② 祝祭性

美術館や劇場のみならず、まちなかでも展開し、文化芸術の日常生活への浸透を図ること。

③ 地域の魅力の向上

愛知の文化芸術活動を活性化し、地域の魅力を国内外に発信すること。

④ 複合性

多領域を横断する現代芸術の特徴を踏まえ、現代美術を基軸にしながらジャンルの垣根を超えて演劇、ダンス、音楽などのパフォーマンス・アーツにも積極的に取り込むこと。美術館、劇場からなる芸術文化センターの複合機能を活用すること。

⑤ 継続性

過去に愛知で開催されてきたトリエンナーレの実績、内外からの評価、今後に向けた期待値を損なわず、前向きに発展させていくこと。

2 付加的な条件

なお、特に 2022 年の開催においては以下の実務的手腕を満たすことが望ましい。

I 危機管理等の即応力

コロナ禍対応を始めとする危機管理や社会経済情勢の変化にあわせた計画の見直しに柔軟に対応することができること。

II 発信／コミュニケーション力

地元協力者、来場者、メディア、国内外の関係者はもとより、県民などに対し、適切な言葉で情報発信を行うことができること。

III 発展継続性

将来にわたってトリエンナーレの世界的な広がりにも貢献することができること。また、県内外の大企業やベンチャー企業はもとより、大学、NPO、NGO など社会の幅広い組織と連携し、分野を横断する先進的な企画内容の展開ができること。

IV 多様性・新鮮さ

現代芸術のみならず隣接する表現領域にも目を向け、これまでには起用されていない専門家（女性、外国人、コレクティブ、アーティストなど）の選出によって心機一転したポジティブなメッセージを発信できること。テクノロジーやデータ社会、地球環境・気候変動などのグローバルな諸問題に意識的であり、持続可能で多様性と包摂性のある社会実現のための活動とも連携しながら、様々な新しい企画に挑戦できること。

V 国際性

国際的なネットワークを生かして芸術祭をつくりあげることができること。